



どう減らす？ プラスチックごみ

便利なプラスチック、
でもその後は？

ペットボトルや食品のパッケージなどに幅広く使われ、私たちの生活に欠かせないプラスチック。軽くて丈夫、密封できるなど便利な点がたくさんあります。しかし適切に処理されず、

海に流れ出たプラスチックごみが、いま国際的な問題になっています。

プラスチックは一部を除き自然の中では分解されにくく、分別回収されず海に流れ出ると、細かく砕けた状態で漂い続けます。それを魚や鳥、プランクトン



分別回収されず海岸に打ち上げられたプラスチックごみ。海を漂ううちに細かく砕け、生態系に悪影響を与えます



コープは、事業と活動を通して国連「SDGs（持続可能な開発目標）」を支援します。今回の取り組みは、「目標12・つくる責任 つかう責任」につながっています。

プラスチックごみを急激に減らすためにできること

プラスチックごみを急激に減らすことは難しいですが、一人ひとりが少しずつ工夫することで減らしていくことができます。お買い物や生活の中で次のようなことに気をつけてみましょう。

コープはプラスチックの削減に取り組めます

家庭から出るごみのうち、レジ袋や食品トレーなどのプラスチックの容器包装は約47%。コープでは、リサイクル資源の回収にこれまで以上に取り組み、コープ商品の環境負荷を減らす取り組みを進めます。

クイズ

プラスチックごみのこと、 知っていますか？

Q1. レジ袋を含むプラスチック容器包装のごみ(商品などのパッケージ)は、家庭ごみのどのくらいを占めると思いますか？(容積比)

- ①15% ②37% ③47%



Q2. 〇〇年には、海の中のプラスチックごみの量が、魚の量よりも多くなってしまうという研究が発表されました。何年だと思いますか？

- ①2050年 ②2080年 ③2100年



Q3. 日本人一人あたりのプラスチック容器包装ごみ発生量は、世界何位だと思いますか？

- ①1位 ②2位 ③3位

(答えは5ページ右下にあります)

ンが誤って飲み込み、傷ついたり死んだりしてしまうのです。また石油から作られるプラスチックは、燃やすと二酸化炭素(CO2)が発生し、地球温暖化にもつながります。

日本は一人あたりのプラスチックごみの発生量が米国に次いで**世界第2位**。便利のその先を考え、プラスチックごみをできるだけ減らしていくために、使う量を減らす、使ったらリサイクルにまわす、といった工夫が必要です。

Recycle (リサイクル)

リサイクル

ごみではなく、資源として分別しましょう。自治体などの決まりに従って正しく出せば、再生資源として使うことができます。



Reuse (リユース)

繰り返し使う

繰り返し使う代替商品などの環境に配慮された商品を選びましょう。

Reduce (リデュース)

減らす

お買い物のときはマイバッグを持って行きましょう。レジ袋のごみを減らすことができます。



再資源化・再生



CO-OP ビーフカレー 中辛

パッケージの原料に回収ペットボトルなどの再生資源を使用します

繰り返し使う



CO-OP セフターENERGY 抗菌・防臭詰替用

引き続き詰替用の商品を取り扱います

使用量を減らす



CO-OP ただの炭酸水

パッケージを省いたり軽量化して、プラスチックの使用量を減らします

※出典：環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査の概要(平成30年度)」

